

■コメント

1. 梅毒

広島市では、2015年以降、梅毒の報告数が増加しており、今年の累計もすでに73件(男性46件、女性27件)となりました。

梅毒は、性行為で感染し、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置すると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、死産や奇形が起こることがあります。

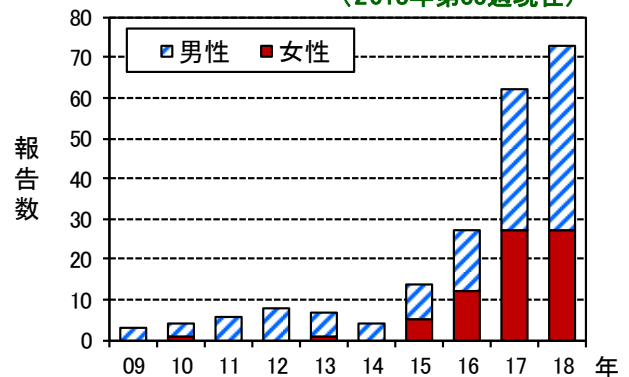
梅毒に感染したおそれのある方は、早期に医療機関を受診しましょう。

2. レジオネラ症

1件の報告があり、今年の累計は25件となりました。(次頁参照)

梅毒の年間報告数の推移

(2018年第33週現在)



第33週はお盆期間中のため、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があります。そのため、「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	1	0.03	0.01		
	咽頭結膜熱	4	0.17	0.48		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	1.33	0.95		
	感染性胃腸炎	58	2.42	2.60		
	水痘	6	0.25	0.38		
	手足口病	21	0.88	1.71		
	伝染性紅斑	-	-	0.09		
	突発性発しん	5	0.21	0.34		
	ヘルパンギーナ	11	0.46	0.72		
小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.43		
	RSウイルス感染症	20	0.83	0.61		
眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	-		
	流行性角結膜炎	11	1.38	0.75		
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	無菌性髄膜炎	-	-	0.23		
	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.34		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14			

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	1	25	男性(70歳代)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	男性(60歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	6	男性(30歳代)・感染者
5	梅毒	1	73	男性(50歳代)
5	百日咳	2	33	女性(10歳未満)、男性(10歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎
報告数	第29週	-	17	55	101	7	72	-	3	31	1	28	-	9	-	-	1	-	-
	第30週	10	6	53	82	5	61	1	8	22	6	39	-	9	-	-	1	-	2
	第31週	21	16	52	77	3	41	1	10	28	1	55	-	7	-	1	1	-	-
	第32週	19	8	43	57	5	35	1	8	21	6	44	-	10	-	-	2	-	-
	第33週	1	4	32	58	6	21	-	5	11	3	20	1	11	-	-	1	-	1
定点当たり	第29週	-	0.71	2.29	4.21	0.29	3.00	-	0.13	1.29	0.04	1.17	-	1.13	-	-	0.14	-	-
	第30週	0.27	0.25	2.21	3.42	0.21	2.54	0.04	0.33	0.92	0.25	1.63	-	1.13	-	-	0.14	-	0.29
	第31週	0.57	0.67	2.17	3.21	0.13	1.71	0.04	0.42	1.17	0.04	2.29	-	0.88	-	0.14	0.14	-	-
	第32週	0.54	0.36	1.95	2.59	0.23	1.59	0.05	0.36	0.95	0.27	2.00	-	1.25	-	-	0.29	-	-
	第33週	0.03	0.17	1.33	2.42	0.25	0.88	-	0.21	0.46	0.13	0.83	0.13	1.38	-	-	0.14	-	0.14
	第31週	0.05	0.51	1.44	3.86	0.23	1.71	0.29	0.48	3.12	0.16	1.33	0.01	1.09	0.01	0.07	0.24	-	0.01
	第32週	0.04	0.39	1.10	3.05	0.20	1.37	0.22	0.39	2.35	0.12	1.37	-	0.81	0.02	0.04	0.23	-	-

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

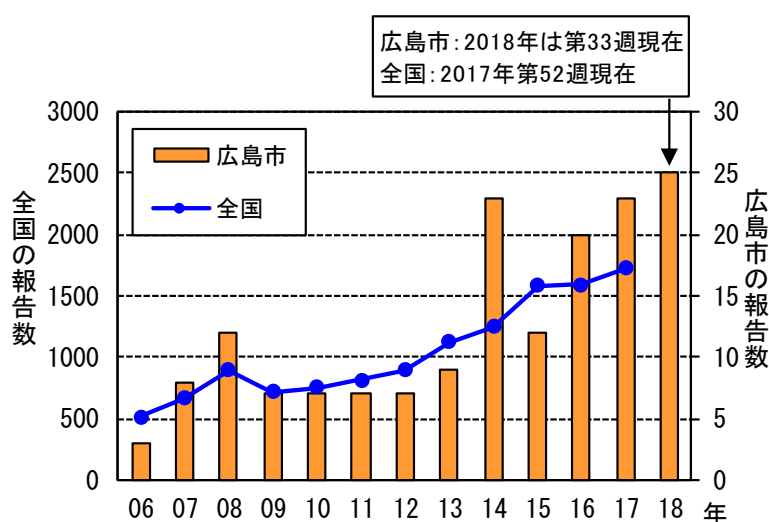
■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(40.1) 肺炎 結膜炎	1	女	2018/06/15	咽頭拭い液 糞便	アデノウイルス64型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市及び全国におけるレジオネラ症の年間報告数の推移



広島市におけるレジオネラ症の報告数が、今年は第33週現在で25件となりました。患者のうち、50歳以上の男性が21件と84%を占めています。全国的にも中高年の男性に多い傾向が見られ、年間報告数も増加傾向で推移しています。

レジオネラ症は、河川や土壌など自然界に生息するレジオネラ属菌による感染症で、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)を吸入することによって発症し、肺炎型とポンティアック熱型に分けられます。レジオネラ肺炎は2～10日の潜伏期間の後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難が出現し、胸部X線で肺野性陰影の所見が認められます。

災害復旧作業中に、舞い上がった土ぼこりや水を吸い込むことで感染することもあります。予防のため、作業の際には、マスクを着用しましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666

広島市西区商工センター四丁目1番2号
E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2018年第33週(8月13日～8月19日)